

第 33 回豊橋市小中高特連携教育推進協議会議事要録

令和 5 年 5 月 26 日 開 催

豊 橋 市 教 育 委 員 会

第 33 回 豊橋市小中高特連携教育推進協議会

日時	令和 5 年 5 月 26 日（金）午後 2 時 00 分～午後 3 時 00 分
場所	豊橋市男女共同参画センター
出席者 敬称略	<p>教育長 山西正泰</p> <p>教育委員 内浦有美 中島美奈子 西島豊</p> <p>高等学校等校長 寺田安孝（時習館） 丸崎恵子（豊丘） 有賀洋之（豊橋南） 間瀬泰宏（豊橋商業） 本多芳隆（豊橋高） 山田淳子（くすのき特別支援） 満田康一（桜丘中） 横山貴美（桜丘） 高倉嘉男（豊橋中央）</p> <p>小中校長会 宮林秀和（青陵中） 小松正人（栄小） 鈴木宏卓（五並中） 大塚雅史（福岡小）</p> <p>代理出席 小栗達年（豊橋特別支援部主事）</p> <p>事務局指定委員 種井直樹（教育部長）</p> <p>※欠席者：</p> <p>渡辺嘉郎（教育委員） 鈴木敏夫（豊橋東校長） 藤城義光（豊橋西校長） 高木永幸（豊橋工科校長） 衛藤真有（豊橋豊校長） 彦坂充俊（豊橋特別支援校長） 山崎宏人（藤ノ花女子校長） 梅原康史（東部中校長）</p>
オブザーバ ー	<p>森卓也（東三河教育事務所主査） 小田敦子（豊川市教育委員会指導主事）</p> <p>彦坂繁（蒲郡市教育委員会主幹） 戸田由美子（新城教育委員会指導主事）</p> <p>峠尚良（田原市教育委員会学校教育課長）</p>
事務局	浅倉淳志（教育政策課長） 鈴木大介（教育政策課主幹） 他 6 名

次 第

- 1 教育長あいさつ
- 2 副会長紹介
- 3 昨年度の活動報告と今年度の活動の方向性について
- 4 東三河小中高特連携教育推進協議会について
- 5 連絡事項（事務局）

議事録

(西島会長)

本日は、ご多用の中、ご出席をいただきありがとうございます。

定刻になりましたので、ただ今から、「第33回豊橋市小中高特連携教育推進協議会」を開催いたします。私は、本協議会の会長を務めさせていただきます、教育委員の西島でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

はじめに、本協議会に初めて参加する委員の方や代理出席の方もおられますが、お手元の資料をもって紹介に代えさせていただきます。よろしくお願いいたします。また、平成25年度からは、東三河他都市の教育委員会や教育事務所の方々にもオブザーバーとして声をかけさせていただいております。本日は、東三河教育事務所、豊川市教育委員会、蒲郡市教育委員会、新城市教育委員会、田原市教育委員会の先生方にご出席をいただいております。また、各分科会の委員をお引き受けいただいた、みなさま方にもお越しいただいております。

それでは、次第にしたがって、協議会を進めてまいります。はじめに、「1 教育長あいさつ」豊橋市教育委員会 山西教育長より、ごあいさついただきます。

(山西教育長)

昨年度まで委員を経験された方々は、本協議会が立ち上がった経緯等をご承知のことと思いますが、新しく委員になられた方もお見えですので、改めて本協議会について説明をさせていただきます。

この協議会は平成20年度に発足されました。できるまでの経緯としましては、本市の作成する総合計画をもとに教育委員会が教育振興基本計画を策定していますが、その基本計画では18歳までの子どもの育ちを基軸として、政策等を体系化しています。しかし、義務教育を終えたところで、大きな溝ができ、子どもの育ちの支援が切れてしまう感じでした。本来、子ども一人一人を支援するための教育環境の整備は継続していないといけません。義務教育である小中学校と高等学校等では設置者が違うので、ある意味仕方のないことでしたが、本市で生まれた子どもたちは本市の小中学校に通って、そのほとんどは本市や本市周辺の県立高等学校や私立高等学校へ進学しています。こう考えたときに小中の連携は図られているので、その延長線上にある高等学校との連携も図ることができないかと、前加藤教育長が模索し、市内の県立高校とも協議を重ねた結果、平成21年度に4つの分科会で本会が設置されました。

その後、何度か分科会の増減を経て、現在では「英語教育」「理科学教育」「特別支援教育」「言語能力」の4つの分科会で、小中高特の教員がそれぞれ連携しながら活動しております。

さらに、昨年度より豊橋市内の私立の中学高等学校にも委員になっていただいたことで、より一層、横のつながりを強化することができました。

それぞれの分科会委員のみなさんにおいては、活動目標を定め、具体的な事業計画に則って活動を進めるなど、今年度の分科会活動がよりいっそう活性化するようにお力添えをいただきたいと思っております。

平成28年度からは、東三河教育事務所が主体となり、東三河の振興に向けた教育分野での取り組みとして、東三河小中高特連携教育推進事業が動き出しております。これは、義務教育と高等学校教育、特別支援学校教育の間にある壁を取り払い、子どもの成長を支援する

営みに他なりません。

今後も、本市および東三河の小中高特の学校が、縦と横で連携を深めながら、子どもたちの生きる力を磨き、深めていけるよう、みなさまのお力添えをいただきたいと思います。

本日は、よろしく願いいたします

(西島会長)

続きまして、次第の2、本会の副会長を紹介します。副会長は、本会の規約「第5条第3号」により、私から指名させていただきました。時習館高等学校長の「寺田委員」と青陵中学校長の「宮林委員」をお願いしたいと思います。また、会長の職務代理者については、本会の規約「第5条第7号」により、副会長の中から、私が指名をさせていただくことになっていますので、「寺田委員」をお願いをします。

それでは、代表して「寺田委員」に一言ご挨拶をいただきます。

(寺田委員)

ご紹介にあずかりました時習館高等学校の寺田と申します。この4月より着任いたしました。

私は、この小中高特連携教育という言葉が大好きです。子どもたちは生まれてから自立するまで連続的な者である、そういう存在だと思っています。ただ、市町村教育委員会と県教育委員会の設置者の違いがあって、小中までは連携ができて、高特は連携ができて、しかし、その間にギャップ、壁があるように思います。それは致し方ないことですが、ただ私たちの願いは生まれてから自立するまで子どもたちの幸せを願う、そういう気持ちはここにいるみなさまを含めて全ての教員が同じ思いであります。したがって、小中学校で先生方が手塩をかけて育ててくれた子どもたちをその上の学校が引き受け、さらに私たち高等学校、特別支援学校が小中の先生方がどういう思いで、また親御さんがどういう思いで育ててきたかという育ちの歴史を理解したうえで自立するまで支えていくことが大切です。それをこの豊橋市が率先して行っていること、さらに時習館高等学校の校長としてお招きいただいたことに大きな意味があると思っています。したがって私たちが当然のことながら協力をさせていただき、ここにいるみなさんが心をつなげてこの小中高特連携教育を一層推進していく誓いを胸に、このあと有意義な会にしたいと考えています。

(西島会長)

続きまして、次第の3、「昨年度の活動報告と今年度の活動の方向性について」、進めてまいります。協議の進め方ですが、(1)から(5)まで、それぞれで「提案」と「協議」を行います。そこで言えなかったご意見は、(6)の「全体を通じた意見交換」で言うだけでも結構です。発言の際は、係の者がマイクを持っていきますので、マイクを通して発言して下さるよう、よろしくお願いいたします。はじめに「協議会全体にかかわること」について、事務局から説明をしていただきます。

(浅倉教育政策課課長)

この後、各分科会の委員長からも報告がありますので、各分科会の報告後に、ご意見等あればお願いします。

全体にかかわる動きとして1点お話をさせていただきます。6ページをご覧ください。これ

はすでに5月11日に発出している文書であります。豊橋市立の小中学校の各教科等研究部が行う授業研究会を高等学校にも案内するもので、平成30年度から行っています。今年度も積極的にご案内させていただく予定です。7ページに授業研究会の一覧表が載せてあります。募集方法は、各研究部から上がってきた実施計画をもとに教育政策課が開催通知を作成し、各高等学校等と近隣の各市教委にご案内します。この取り組みによって、小中高特の縦のつながりが強力になっていくことを期待しております。

(西島会長)

続きまして、各分科会の委員長から、昨年度の活動と今年度の方向性等についてお話をいただきたいと思います。各分科会、「提案」と「協議」合わせて10分弱しか時間が取れませんが、有意義な時間になればと思います。最初に「英語教育分科会」です。委員長の五並中学校長、「鈴木委員」からご報告をいただきます。

(鈴木委員)

五並中学校の鈴木と申します。まず目標ですが、会長や教育長からお話が合ったように、小中高における教育内容の共通理解が大切です。英語は小学校から中学校、高等学校へと続いていきます。中学校の先生が小学校でどんな英語をやって、どう力を伸ばしていくのか、また高等学校ではどんな授業をしているのかについて知ることが大変有意義であることから、お互いの授業を知ろう、それぞれの授業についてどのような感想をもったのかを情報発信していこうということで開催をしてきました。

昨年度は年間5回行いました。特に第2回、牛川小学校の授業はコロナ禍のため人数制限されていたので、研究部のweb授業公開に分科会メンバーを入れていただき、参加しました。その後、中学校、高等学校とそれぞれの授業に参加をし、分科会を開きました。第5回については、メール等を使い意見を集約し、まとめました。

コロナ禍が影響し、委員以外の先生方の参加がそれぞれ3名程度であったため、この人数が増えるといいと思いました。私は英語研究部にも関わっているため、英語研究部を通して、情報発信できたらと思います。

課題としては、英語研究部が運営している夏休み英語体験活動『I LOVE TOYOHASHI!』English Campに多くの先生方に参加していただくことです。この活動では、御津あおば高等学校の生徒にワークショップを開いていただきました。その中の1名が、中学校時代に参加した生徒で、私自身も感銘を受けたのですが、私たちが中学校で教えた生徒が高校に入ってくようになってくれるといい、そんなモデルになる生徒でした。中学校の英語研究部の事業であります。ぜひ小学校や高等学校の先生方にも見ていただきたいと思います。

今年度は、分科会委員13名のうち9名が新しく委員になりました。新しい視点でいろいろな意見が聞けると楽しみにしています。活動予定としては、第2回が富士見小学校で英語の授業公開を行います。日程は現在調整です。第3回は10月17日に羽田中学校で英語の授業研究会、第4回は豊橋東高等学校の開催の「あいちリーディングスクール事業」への授業公開へ参加させていただき、分科会を考えています。活動内容については、昨年度と同じように授業を見て、協議会に参加し、そのあと分科会を開き、その内容を研究部で作成している英語部報で発信していく形で進めていきたいと思っています。

(西島会長)

ありがとうございます。

ただ今の報告について、何かご質問・ご意見等はございませんか。

(小松委員)

系統化という視点でお尋ねします。中学校英語の学習をこれからも推進していくうえで、小学校で押さえておきたいこと、頑張ってもらいたいこと、また高等学校で伸ばしてもらいたいこと等がありましたら教えていただけるとありがたいです。

(鈴木委員)

小学校にはぜひ、英語が好きなまま中学校へあげていただけたらと思います。高等学校はなかなか難しいところがあると思います。昨年、高校の先生とお話をさせていただいた中で感じたことは、各校で英語の目指す生徒像が違うことです。ただ英語を使って自己表現ができることについては、英語教育で求めているところだと思っています。

(寺田委員)

鈴木校長先生に御津あおば高等学校と連携について触れていただきました。ありがとうございました。私の前任校であります。ご存じの方もいらっしゃると思いますが、豊橋市と御津あおば高等学校で中高人事交流が行われています。東陽中学校の伊木先生が現在、御津高等学校の英語教諭として活躍しています。高等学校からは、丸山先生が東陽中学校で頑張っていると聞いております。この二人であれば、英語教育分科会の活動が本年度、必ず実行できると思いますので、声かけをしていただければと思います。

(西島会長)

他に、ご意見・ご質問はございませんか。なければ、「理科学教育分科会」に移ります。委員長の時習館高等学校長、「寺田委員」からご報告をいただきます。

(寺田委員)

時習館高校の寺田です。まず目標につきましてはそこにあるとおりでございます。活動状況につきましては、第3回は中止となりましたが、計4回実施をさせていただきました。第2回目の時習館高等学校で化学、物理、生物分野の実験講座を行わせていただきました。第4回では、豊橋工科高等学校も特色のある課題研究の様子をご覧にいただきました。素晴らしい学校と素晴らしい取り組みですので、どうか豊橋市内の中学生でもものづくりを志す生徒は、興味をもっていただければと思います。

続いて分析です。

①小中高の教育連携につきまして、実験講習会や高等学校の授業公開を通して、先生方の共通理解を図ることができました。また、情報発信を工夫していただきながら、小中の研究部長の先生や指導員の先生方にも引き続き協力を仰ごうという共通認識をもったところでございます。

②小中高の指導の系統化について、高等学校授業公開については、「電流」「オームの法則」などロボット工学分野の学習でも土台となっていることを生徒が実感している様子が伝わってきました。小中学校の学びについて接続ができ、今後の授業について改めて工夫していこうとするきっかけとなりました。

③教員の資質向上について、理科実験に関する疑問や要望を出していただき、それを共有することができたと聞いております。双方向の講習会を通じて先生方のさらなる資質向上に向けて取り組んでまいりたいと思います

これらを受けまして課題ですが、理科実験講習会・高等学校授業公開のさらなる内容と情宣の工夫をしていきたいと思ひます。また、時習館SSHとのさらなる連携を期待するところであります。小中学校理科授業の一層の充実を図るために、教材教具の開発協力について協力をしていきたいです

令和5年度の理科学教育部会の活動予定です。理科実験講習会を連携づくりの引き続き大きな柱と位置づける形で、内容を吟味するとともに、募集方法の工夫を図っていきます。小中学校の授業研究会へ積極的に参加していただくよう促していきます。時習館高等学校SSH・AGH成果発表会への参加についても、情報提供を行っていきたくて考えております。系統化を図ることについて、小中高特のつながりを意識した視点を示していただき、校種間のつながりの理解を深めていただく必要があります。また、授業研究会を通じて、校種の学習内容や指導方法を語り合う場を設け、指導の系統化を一層図っていくことを目指します。また、教員の資質向上に向けて、理科授業の教材開発について気軽に相談できる体制を作っていきます。活動計画は示した通りです。その他といたしまして、分科会委員を中心に、小中学校理科研究部長や理科指導員と密に連絡して、先生方がお互いの活動を知って気軽に相談できるとよいと思ひます。

(西島会長)

ありがとうございます。

ただ今の報告について、何かご質問・ご意見等はございませんか。

他に、ご意見・ご質問がなければ、「特別支援教育分科会」に移ります。委員長のかすのき特別支援学校長、山田委員からご報告をいただきます。

(山田委員)

特別支援学校の山田です。令和4年の活動報告をさせていただきます。特別支援教育分科会は、各委員をAグループ、Bグループと2つのグループに分けて活動してまいりました。取り組みの目標として3つ挙げています。

豊橋版「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」様式を作成するということ、園では、「すくすくシート」を活用、促進することを目標に掲げてまいりました。また、授業参観などを通して異校種の情報交換をしていこうと1年間活動していきました。

活動の内容は、Aグループでは「個別の教育支援計画」の様式を確定しようと4回にわたって検討してまいりまして、最終回で様式をほぼ確定をしました。また、記入例についても、取り組んでまいりました。

Bグループ、「すくすくシート」については、3つの園で実際に取り組んでいただきまして、その使いやすさや使い方の工夫などを発表・協議しまして、それを全園に広めていけるといいということで1年間を終えました。

課題としましては、「個別の教育支援計画」は整いましたので、「個別の指導計画」の様式の豊橋版を作成して、11月ぐらいまでにまとめ、12月の校長会ではお示しをして、学校で令和6年度から活用していただけるような形で進んでいけるといいと考えております。また、「すくすくシート」の使い勝手も検討しましたので、こういうものがあるようという

こと全園にお伝えして、Q&Aなども作成してはどうかと進めてきました。

令和5年度も今申し上げた通り、2つのグループに分けて引き続きの活動を行っていきたいと考えています。Aグループは「個別の指導計画」の様式の作成をメインに考えております。第3回の分科会で毎年、授業研究会に参観させていただいておりましたが、今年度は4回とも話し合いが必要だということで、南稜中学校の授業研究会を参観した後、4回を通して11月までに様式の確定をしたいと思っています。2学期は少し急ぎ足になろうかと思っています。

また、第1回と第2回のところが離れていますが、今日、分科会委員の方々へ提案をしまして、各委員がそれぞれの学校やご自分の立場にお戻りいただいて、現場での様子を吸い上げることをしっかりやっけていこうと考えています。少し期間を開け、夏休みに会を設定することで、しっかりと時間を使って内容を協議していきたいと考えています。前回の会場で「個別の指導計画」の学習の表れが通知表とリンクできるといいとお話をいたしました。その後、現場のリサーチを重ねまして、現場の先生の声を吸い上げました。通知表は年に3回、「個別の指導計画」は年に1回作成しておりますので、これをリンクさせることは先生方に仕事の負担を強いることになるということです。通知表が年3回ですので、これに合わせて1年間の「個別の指導計画」だったものを学期ごとに作成すると、3倍の仕事量になってしまうので、リンクについては要検討ということにいたします。「個別の指導計画」が各教科ごとに作られていない学校があると聞いたので、汐田小学校の様式をもとに教科ごとに「個別の指導計画」を作ることが本市の優先課題と考えております。まずは様式を整え、教科ごとに作成していくことを広めていきたいと思っています。

「すくすくシート」については、様式が決まっておりますし、様式にとらわれず園ごとに自由にアレンジして使っていく形がより子どもの姿を捉えやすいのではないかと考えております。その「すくすくシート」の使い方、あるいは小学校へつなげていくときのつなげ方などの中身を充実させまして、Q&Aの形でみなさまにお示しできるように1年間かけて作っていきたいと考えております。授業参観については、南稜中学校で異校種の授業を見させていただいて、それを現場の先生方に役立てていただくことも取り入れていきたいと考えています。

(西島会長)

ありがとうございます。ただ今の報告について、ご質問・ご意見等はございませんか。

(寺田委員)

山田校長先生の発表を聞いていて、改めて感心するところがありました。特別支援学校の地域における、特別支援教育のセンター的機能について、校種によらず着目すべきだと思います。特別支援学校に対してはなかなか関係性を構築することが地域によってはたやすすくない状況がある中で、山田先生の発表のとおり小学校とリンクする、中学校とリンクする「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」をあらゆる校種間に普及することは素晴らしいと思います。これは決して公立学校だけにとどまるだけでなく、私学さんにとっても有用なものだと思います。ぜひ特別支援学校や豊橋豊学校など、さまざまな障害種のある学校のセンター的機能を活用していただくと素晴らしく発展していくのではないかと考えます。

(西島会長)

他に、ご意見・ご質問がなければ、言語能力分科会に移ります。委員長の福岡小学校長、大塚委員からご報告をいただきます。

(大塚委員)

令和4年度につきましては、目ざす子どもの姿の情報を正しく理解し、自分の思いや考えをわかりやすく表現できる子、それを系統的に育てていくためにはどうしたらいいかということで取り組みをしております。

1つ目として言語能力の育成のために言語活動を各教科等で効果的に取り入れて、言語能力の向上を図ることを目指し「言語活動ブック」を作成する取り組みをしております。

2つ目、教師の資質向上を図るということで、公開授業等を参観するという予定でしたが、第2回の中学校社会科研究部の授業研究会参観がコロナの影響を受け、中止しました。ただし、小中高特の会を開き、情報交換をすることで、実際に中学校の教員からすると、中学校の子どもを育てることで一生懸命になっていて、卒業した後どうなっているのか、高校の先生からすると足りない学力はどういうものなのか、逆に力がついていることはどこなのか、そのこと伝えてもらうことによって、自分たちの指導を振り返っています。これは中学校から小学校の流れも同じでして、小学校で子どもたちに育みたい力のうち、今、中学校で足りている部分、また足りていない部分はどこなのか、何が必要なのかについて再確認しました。

活動内容につきまして2回目の授業参観は中止となりましたが、1回から4回まで取り組みをしてまいりました。分析については、「言語活動ブック」を作成していくことを大きな取り組みとしています。何をどのように柱として作っていくのかという部分を示させていただいています。汎用性のある言語活動の洗い出し、若手教員が参考にできるような内容、高校の先生方からお話を伺いながら小中高までに身につけたい力等について協議をいたしました。こういった活動を通して、土台ができましたので、実際にブックの元となる原稿を作っていきます。意見交流をし、具体的にどういう内容のものを作っていきますかということまで話し合いが進んでいます。

今、お話しさせていただいた内容を踏まえて令和5年度言語能力分科会の方を進めてまいります。繰り返しになりますが、「言語能力ブック」を作るということが大きな目的になっています。合わせて中学校でどういう力をつけていかななくてはいけないか、小学校でどういう力をつけていかないといけないかについて、小中高で情報交換する中で必要な内容について、さらに精選していきたいと思えます。活動については、4回の活動を予定しております。実際には4回ではありますが、活動と活動の間に各委員の方々に資料を作成していただき、それぞれの会で検討していく形で進めていきたいと考えております。漠然とした話になっていきますので、具体的に作った原稿を通してどういった方向で進めていこうかということですが、項目ごとの言語活動について、授業場面と子どもが具体的にこんな話し合いをするとよいのではないかと、具体的に提示することによって、言語活動における目標やイメージをつかめるようになるのではないという意見が出てきています。また、例としてペアで話し合う活動によって、この活動の中で自分の考えを整理できる、話すことが苦手な子も気軽に話すことができるといった活動のメリットを示すことで、言語活動を効果的に活用できる場面が把握しやすくなるのではないかと考えています。令和6年度の完成に向け、令和5年度では原稿の完成を目指していきます。

令和6年度に完成し、令和7年度から活用となった場合、令和6年度の段階で先生方にど

のように情宣していくのが大きな課題です。多くの先生方に言語活動ブックを活用していただけるような情宣の仕方や予算等については早い段階で考えていきたいと思ひます。

(西島会長)

ありがとうございます。ただ今の報告について、ご質問・ご意見等はございませんか。

(山西教育長)

「言語活動ブック」を小中高の先生方が手元に持っている形で捉えてよろしいですか。

(大塚委員)

小中高特の先生方が1冊ずつ手元におく形が実現できれば本当にありがたいです。それが難しいようでしたら「言語活動ブック電子版」として、皆さんに分かっていただきたいところをチラシやパンフレットという形で情宣できるといいと考えています。

(山西教育長)

これを持って、小学校の先生が高校の授業を見に行ったときにブックがあればそのヒントが得られるという理解でよいのか、また、高校の先生が小学校の授業を見に行ったときにブックがあれば小学校の授業の言語活動はこんなレベルのことをやっているというガイドラインが示させるという理解でよいですか。

(大塚委員)

両方の面が自分の中にはあると思ひます。先ほど説明させていただいたことの他に、まずは若い先生方が言語活動に取り組んでいくときに、こういった内容については押さえおいてほしいという点を記載していきます。また、実際の授業ではペアトークやグループ討議の場面をよく見ますが、先生が子どもたちの周りを見て歩いているだけで、具体的な指導や支援がなされていない場面が見受けられることもあります。この冊子の中にペアトークをやる時、先生方の指導・支援のポイントのような形で落とすことによって、若い人たちが活用できるものにしていきたいと考えています。ですから、ブックを持って学校を参観したときに、小学生のレベルとして、できているな、まだまだ足りないなという一つの基準になると考えています。

(山西教育長)

楽しみにしています。小中高だけでなく特別支援の言語活動も入れてください。

(西島会長)

全体を通して何かご意見はございませんか。

(小松委員)

特別支援教育へ戻らせていただきたいと思ひます。先ほど「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」について説明がありました。山田先生から多忙化につながることを懸念しながら学期ごとにするの、年間を通してという形であるのか悩みがあるところのご発言がありました。私は、子どもたちの学びを促進していくためには学期ごとのほうがよいかと思ひていま

す。ただ先生が懸念されるように、多忙化を招くのはよくないので、例えば小学校でいうならば全での教科ではなく、この子にとって、国語、理科、算数は見ていきたいが他の教科はなくていいなど、個々に教科を選択する、また、表記する場合に支援計画と指導計画の重なっている部分は思い切って割愛し、指導計画をすっきりさせていくこと、表記する項目や分量を削減するような方法で現場の先生方へ配慮していただけたらと思います。

(山田委員)

貴重なご意見、ありがとうございます。現場の先生方にとって伝えやすく、ためになり、でもあまり負担にならないようなものを考えています。特に「個別の支援計画」と「個別の指導計画」で重複して記入している部分、あるいは似通った項目について、今はワードで作成しているものをエクセルで作成し、リンクをして加工できるような形になるといいと思っています。子どもの重点目標など先生が2度書かなくてもいいようなシステムにしたいと思っています。

教科ごとの評価については、小学校の場合は担任制ですが、中学校では教科ごとの先生が担当している形なので、一人の中学生に対して国語はこんな目標でやっていこう、数学はこんな目標でやっていこうなど、それぞれ担当している先生方に考えていただきたいと思っています。中学校の先生方もお忙しいため、後回しになっている面もありますが、うまくやっていけるといいです。全ての教科でなくてもいいと思いますし、通常学級にいらっしゃる生徒で「個別の支援計画」「個別の指導計画」が必要な子もいるので、必要な項目だけに限定していけばいいと考えています。

(西島会長)

続きまして、次第の「4、東三河小中高特連携教育推進協議会について」、東三河教育事務所森主査よりご説明をお願いします。

(森主査)

東三河教育事務所では、東三河振興のための教育分野での取り組みとして、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の連携教育の推進に向けた事業を実施してまいりました。本日出席の皆様をはじめ、多くの方々にご協力いただいて実現していることだと思えます。大変ありがとうございます。

令和4年度の具体事業① 「ほの国」未来セッションはweb開催で行っております。東三河の高校を卒業し、社会で活躍している先輩のインタビュー動画、高校の学科、学校紹介動画、東三河全ての高校のホームページへのリンク、中学生から寄せられた質問へ高校生が回答する質問ボックスを掲載し、11月から1月末まで3か月公開しました。東三河の管内8市町村の中学1,2年生の保護者、中学校教員の皆さんに視聴していただき、アクセス数は76,920件、77%の中学校でキャリア教育や進路学習の授業で活用していただきました。本年度もより多くの方に活用していただけるように、計画を進めているところであります。皆様には周知やアンケートなどのご協力いただくとと思いますが、よろしく申し上げます。近々、「ほの国」未来セッションの具体的な事業について連絡できると思えますので、お待ちいただけたらと思います。

具体事業② 小中高特人事交流連絡会については、義務から県立、県立から義務へと交流で派遣された先生方から貴重な体験談を聞いたあと、交流者の先生を交え、管理職をはじめ、

各校種の教員が班別に質疑応答、意見交流する場を設け、交流の意義を一層広めるよう努めたところです。

具体事業③ 専門学科を有する県立高校と特別支援学校における初任者研修についてです。教員の大半は専門学科での経験がありませんので、そこでの教育活動の実態を知ることで、キャリア教育や進路指導にいかすこともできる大変貴重な取り組みとなっています。特別支援学校においては個に応じた指導、支援について学び、日々の教育改善に役立てることができ、大変有意義な取り組みとなりました。

最後に具体事業④ 中高一貫教育フォーラムは、東三河管内三地区の中高一貫教育の現状と課題をオンライン形式で共有しました。今後のあり方、持続可能な中高一貫教育について共に考える場となりました。

令和5年度の計画、中高一貫教育フォーラムについては事業の目的を達成できましたのでこれで廃止とします。今後と東三河の小中高特連携教育の推進に、ご理解ご協力をお願いいたします。

(西島会長)

ありがとうございます。ただ今の報告について、何かご意見等はございませんか。

(宮林委員)

中高一貫教育フォーラムは役割を終えたということではありますが、今後、時習館高等学校で中高一貫がスタートするとのこと。この会で情報が還元されるといいと思っています。先行する公立高校もございますし、また桜丘学園さんはすでに一つの学園の中に中高一貫をもっていますので、様々な情報がここにかかれてくると、それぞれの小中高特にとってプラスの面があるのではないかと考えております。特に公立にかかわることについては、事務局のほうから積極的な情報提供があるといいと思います。

(西島会長)

他に、ご意見等はございませんか。なければ、続いて、次第の5、「連絡事項」に移ります。事務局、お願いします。

(浅倉教育政策課長)

連絡事項として3点お願いします。

1点目、少年少女発明クラブについてです。豊橋少年少女発明クラブではボランティアとして高校生指導員を募集しています。紙工作、木工、プログラミングなどの技術指導、子どもたちへの温かい声かけが主な役割です。「ものづくり愛知・豊橋」の将来を担う人材を育むという意義ある活動です。高校生指導員は令和3年度からの取り組みで、現在は豊橋工科高校、豊橋南高校の教育コースと自然科学委員会の皆さんに来ていただいています。ものづくりの好きな生徒、子どもの好きな生徒、学校の先生をみざす生徒、写真撮影、新聞づくりなど発信の得意な生徒の皆さんにご協力いただけたらと思います。今年度は、発明クラブの通信づくりにも高校生指導員に力を発揮していただきたいと考えています。写真部や新聞部で活動されている生徒さんも、ぜひお誘いいただけたらと思います。

ボランティアですので給与はありませんが、交通費等の補助が出ます。資料裏面にありますように、希望する高校の予定に合うよう体験日を設けますので、ご賛同いただける学校は

担当へご連絡ください。よろしく申し上げます。

2点目です。学校と企業等をつなぐパートナー制度についてご紹介申し上げます。配付させていただいたチラシにありますように、4月から、本制度を立ち上げました。出前講座だけでなく、インターンシップや、学びの発信の場の提供、技術指導、物品の貸し出しなど、さまざまな形での連携を進めてまいります。連携企業と連携内容については、豊橋市教育委員会教育政策課のホームページに掲載しております。高等学校も対象となっておりますので、ぜひ、この制度をご活用いただき、学びの充実や、進路指導等にお役だてください。積極的にご活用いただけるよう、学校に戻られましたら、先生方にもご周知くださいますようお願いいたします。

3点目です。このあとは、各分科会に分かれての取り組みとなります。各分科会で本年度の具体的な活動計画を練っていきます。活動終了後は、分科会ごとの解散となりますのでお願いします。

なお、今後の全体会につきましては、令和6年1月29日（月）9時30分より、市役所で行いますので、ご承知おきください。

（西島会長）

ただ今の連絡事項に、何かご質問はございますか。

それでは、以上をもちまして、「第33回豊橋市小中高特連携教育推進協議会」を終了いたします。

本日は、ありがとうございました。